

0001

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工経験記述で、施工計画上の留意事項を説明する答案として最も適切なものはどれか。

- ア．対象工種と現場条件を示し、想定した課題、採用した施工方法・手順、その理由を具体的に記述する。
- イ．「安全第一で施工した」とだけ記述する。
- ウ．工事概要だけを長く記載し、施工上の課題を書かない。
- エ．採用工法名だけを書き、選定理由を示さない。

答え・解説

正答：ア

- ア：経験記述では現場条件と技術判断を結び付けると管理内容が明確になる。
- イ：抽象的で実施内容が分からない。
- ウ：問われた施工管理上の判断が示されない。
- エ：工法選定の根拠がなく判断過程が伝わらない。

総合解説：第二次検定の記述では、一般論よりも現場条件・課題・具体策・理由を一連で示すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

狭い市街地で資材置場が不足する現場について施工計画を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．資材を着工時に可能な限り全量搬入する。
- イ．工程と揚重計画に合わせて搬入時間を指定し、必要量を必要時期に搬入して仮置き量と場内交錯を抑える。
- ウ．搬入計画は運送会社へ任せ、現場工程と連携しない。
- エ．資材置場不足は作業員の注意だけで対応する。

答え・解説

正答：イ

- ア：過剰な仮置きは動線障害や荷崩れリスクを増やす。
- イ：狭隘条件に対し搬入時期・揚重・動線を具体的に調整している。
- ウ：施工工程との整合が取れない。
- エ：管理方法として具体性が不足する。

総合解説：現場固有の制約に対して、施工計画がどのように対応したかを具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

鉄筋が密集する梁と設備スリーブが交差する箇所について、施工計画の記述として適切なものはどれか。

- ア．現場で干渉した鉄筋をその場で切断する。
- イ．スリーブはコンクリート打込み後に位置を決める。
- ウ．施工図で鉄筋・スリーブ位置を事前調整し、必要な補強やかばりを確認したうえで型枠・配筋・設備工事の手順を定める。
- エ．設備業者と鉄筋業者が各自で施工し、干渉時だけ相談する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：構造性能を損なうおそれがある。
- イ：後施工は無計画なはつり等につながる。
- ウ：干渉が起きる前に図面上で調整し、構造・設備双方の条件を満たしている。
- エ：事前調整がなく手戻りの原因となる。

総合解説：複数工種の取合いは、施工前の総合調整と工程順序の明確化が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

外壁防水工事で施工時期を計画する際、経験記述として最も適切な内容はどれか。

- ア．降雨時も工程を優先して施工する。
- イ．防水層を施工した直後から他工種の通路として使用する。
- ウ．下地状態は材料メーカーに任せ、現場では確認しない。
- エ．下地乾燥、降雨予報、端部処理、後続仕上げとの関係を確認し、防水層を損傷させない工程順序と養生を設定する。

答え・解説

正答：エ

- ア：付着不良や漏水につながる。
- イ：防水層の損傷リスクが高い。
- ウ：施工者による下地確認が必要である。
- エ：防水品質に影響する下地・天候・後工程を一体で計画している。

総合解説：施工計画では品質を作り込める施工条件と後工程からの保護まで示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

既存建物を使用しながら行う内装改修の施工計画として、最も適切な記述はどれか。

- ア．利用者動線と工事動線を分け、騒音作業時間、粉じん区画、設備停止時間、日々の復旧範囲を定めて工区を分割する。
- イ．利用者と作業員が同じ動線を自由に通行する。
- ウ．設備停止は当日現場で必要になったら決める。
- エ．粉じん対策は清掃だけで対応し区画しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：供用条件に対して動線・環境・設備・工程を具体的に調整している。
- イ：第三者災害の危険がある。
- ウ：利用者への影響が大きくなる。
- エ：発生源隔離が不十分である。

総合解説：供用中改修では建物利用を維持しながら安全・環境・工程を成立させる計画が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

場所打ち杭工事の施工計画を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．杭径と本数だけを記述し、支持層確認方法を書かない。
- イ．地盤調査資料を確認し、掘削・支持層確認、鉄筋かご建込み、コンクリート打込み、施工記録の手順と管理点を定める。
- ウ．掘削状況は完成後確認できるとして記録しない。
- エ．支持層が想定と違って施工方法を変更しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：施工管理上の重要項目が不足する。
- イ：地中で不可視となる杭について施工過程の確認点を計画している。
- ウ：不可視工程ほど記録が重要である。
- エ：設計条件との相違は協議・再検討が必要である。

総合解説：杭工事は施工中の確認・記録が完成品質の根拠となるため、計画段階で管理方法を定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

外壁工事用足場の施工計画について、最も適切な記述はどれか。

- ア．足場業者へ全て任せ、本体工程との調整内容は記述しない。
- イ．外壁工事完了前に足場を解体する計画とする。
- ウ．外壁施工範囲、作業床高さ、壁つなぎ、揚重位置、昇降設備、解体時期を本体工程と整合させる。
- エ．「丈夫な足場を設置した」とだけ記述する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：元請側で工事全体との調整が必要である。
- イ：後工程の高所作業が困難になる。
- ウ：仮設を本体工事の作業性・安全・工程と結び付けている。
- エ：具体的な計画条件が分からない。

総合解説：仮設計画は本設工事と独立ではなく、施工方法や工程を支える条件として記述する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

揚重機械を選定した経験を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．吊荷重量だけで機種を決める。
- イ．レンタル会社の在庫だけを理由にする。
- ウ．作業半径や地盤条件は施工時に確認する。
- エ．最大吊荷重量、作業半径、設置地盤、搬入経路、周辺障害物を比較し、必要能力を満たす機種を選定した理由を示す。

答え・解説

正答：エ

- ア：クレーン能力は作業半径等にも左右される。
- イ：技術的根拠にならない。
- ウ：転倒・能力不足防止のため事前確認が必要。
- エ：能力と現場条件を総合して機種選定の根拠を説明している。

総合解説：施工機械の選定では、現場条件に対する適合性を理由付きで示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

天候の影響を受けやすい外装工事の施工計画について、最も適切な記述はどれか。

- ア．作業中止基準と気象確認方法を定め、天候不良時に屋内作業へ切り替える代替工程を準備する。
- イ．悪天候でも予定どおり施工することを優先する。
- ウ．天候は予測できないため計画へ含めない。
- エ．作業継続の可否は各作業員の判断に任せる。

答え・解説

正答：ア

- ア：気象リスクを評価し中止判断と代替作業を事前に準備している。
- イ：品質・安全を損なうおそれがある。
- ウ：予備日や代替工程を検討できる。
- エ：統一した基準と指揮が必要である。

総合解説：天候リスクを工程へ織り込み、安全を守りながら工程回復できる計画とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010

6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

施工中に当初計画を変更した経験を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．「現場に合わせて変更した」とだけ記述する。
- イ．変更が必要となった条件、変更方法、品質・安全・工程への影響確認、関係者への承認・周知を一連で記述する。
- ウ．変更後の方法だけを書き、影響は検討しない。
- エ．作業班ごとに自由な方法へ変更してよいとする。

答え・解説

正答：イ

- ア：判断根拠が分らない。
- イ：変更の理由と技術的妥当性、周知まで明確である。
- ウ：変更による副作用を評価する必要がある。
- エ：施工方法の不統一につながる。

総合解説：施工計画の変更も管理対象であり、理由・影響・承認・周知を記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

隠蔽される部分の品質を施工計画に組み込む場合、最も適切なものはどれか。

- ア．完成後の写真だけで確認する。
- イ．検査時期は工程へ入れず、検査員が来た時に行う。
- ウ．鉄筋・アンカー・防水端部などについて隠蔽前の確認時点を工程に入れ、適合確認後に次工程へ進む。
- エ．後工程を先行し問題があれば撤去する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：現物確認ができない場合がある。
- イ：未確認施工や待ち時間の原因になる。
- ウ：後から確認しにくい部分の検査をホールドポイントとして計画している。
- エ：手戻りと品質リスクを増やす。

総合解説：施工計画には作業だけでなく、検査・承認を受けるタイミングも含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 6-1 施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

狭い敷地でプレキャスト部材を搬入・建方する施工計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．工程だけ最短にし揚重条件は当日決める。
- イ．品質だけ確保できれば道路影響は考えない。
- ウ．吊荷重量だけ確認し仮置きと建方精度は計画しない。
- エ．搬入時間、吊荷重量・作業半径、仮置き場所、建方精度、第三者立入防止を相互に整合させて計画する。

答え・解説 正答：エ

- ア：重要条件の事前確認が不足する。
- イ：市街地工事では交通・第三者安全も必要。
- ウ：施工性と品質条件が不足する。
- エ：工程・揚重・品質・公衆安全を一体で検討している。

総合解説：応用的な施工計画では複数の制約条件を同時に満たす判断が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の施工経験記述として、最も適切な構成はどれか。

- ア．工種、重点管理項目、その理由、実施した管理方法、確認結果を具体的に記述する。
- イ．品質項目を列挙するだけにする。
- ウ．「品質を高めた」と結論だけを書く。
- エ．工種を示さず一般論だけを書く。

答え・解説 正答：ア

- ア：重点項目と理由・実施・確認を一連で示している。
- イ：管理上の判断が伝わらない。
- ウ：具体的な管理行為がない。
- エ：経験に基づく記述にならない。

総合解説：品質経験記述では「何を、なぜ、どう管理し、どう確認したか」を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

コンクリート工事の品質管理経験として、最も適切な記述はどれか。

- ア．「良いコンクリートを使った」とだけ記述する。
- イ．受入検査、打込み区画、締固め、打重ね、養生を管理し、試験結果と施工記録で確認した。
- ウ．圧縮強度試験だけ行い締固めや養生を管理しない。
- エ．完成面だけを見て受入時の品質は確認しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：具体的管理がない。
- イ：材料受入から施工・養生・確認まで一連の品質管理となっている。
- ウ：施工品質も強度・耐久性に影響する。
- エ：受入確認も重要である。

総合解説：コンクリート品質は材料だけでなく打込み・締固め・養生まで工程全体で作り込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

鉄筋工事について品質管理上の重点項目を記述する場合、最も適切なものはどれか。

- ア．コンクリート打込み後に鉄筋位置を確認する。
- イ．加工図が承認済みなら現場配筋は確認しない。
- ウ．径・本数・間隔・継手・定着・かぶり・位置を打込み前に確認し、不適合を是正してからコンクリート工事へ進む。
- エ．鉄筋表面の色だけを重点管理する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：打込み後は直接確認困難である。
- イ：実施工の適合確認が必要。
- ウ：隠蔽される前に構造性能へ直結する項目を確認している。
- エ：配筋・かぶり等の方が重要である。

総合解説：鉄筋工事では不可視化前の配筋検査が品質保証の要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

鉄骨高力ボルト接合の品質管理を経験記述にする場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．本締めだけ実施し一次締めは記録しない。
- イ．摩擦面へ塗料が付着してもそのまま締める。
- ウ．使用済み高力ボルトを再使用する。
- エ．接合面の状態、ボルトセット、一次締め・マーキング・本締め、締付け後の確認を所定手順で管理した。

答え・解説

正答：エ

- ア：工程管理が不十分である。
- イ：摩擦性能を低下させる。
- ウ：品質保証できない。
- エ：接合性能を左右する材料・面状態・締付け工程を一連で管理している。

総合解説：接合部品質は完成後の外観だけでなく、施工手順と確認記録で保証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

防水工事の品質管理経験として、最も適切な記述はどれか。

- ア．下地乾燥・清掃、ドレン・立上り等の納まり、材料施工条件を確認し、施工後は防水層を保護した。
- イ．防水材の色だけ確認する。
- ウ．雨天でも下地の濡れを確認せず施工する。
- エ．施工後すぐ他工種へ自由開放する。

答え・解説

正答：ア

ア：漏水リスクに直結する下地・取合い・養生を具体的に管理している。
イ：品質管理項目として不十分。
ウ：付着不良等の原因になる。
エ：損傷防止措置が必要。

総合解説：防水は下地状態と端部・貫通部の施工品質、施工後の保護が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

外壁タイル工事の品質管理として、最も適切な経験記述はどれか。

- ア．タイル色だけ確認する。
- イ．下地状態、張付け材の施工可能時間、張付け状態を管理し、硬化後に打診等で浮きを確認した。
- ウ．広い面積へ張付け材を一度に塗り、表面乾燥しても施工する。
- エ．完成後の打診確認を行わない。

答え・解説

正答：イ

ア：接着品質の確認にならない。
イ：接着不良を防ぐ施工条件と完成後の確認を組み合わせている。
ウ：オープンタイム超過で接着不良の原因になる。
エ：浮きを検出できない。

総合解説：外装仕上の品質管理では施工中の条件管理と施工後検査を両方行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

建具周りの漏水防止を品質管理として記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．建具開閉だけ確認し外周シールは見ない。
- イ．外部側の隙間を残して室内側だけ塞ぐ。
- ウ．枠取付け精度、外壁とのシーリング、防水層との連続、水抜き、ガラス周りを確認し、必要な水密確認を行う。
- エ．ガラス溝の排水は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：水密性の確認が不足する。
- イ：外部からの雨水侵入を防げない。
- ウ：漏水経路となる取合い部を連続的に管理している。
- エ：滞水・漏水リスクが高まる。

総合解説：建具の品質は製品単体だけでなく、躯体・外壁・防水との取合いで決まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

仕上げ工事で数値化しにくい色・肌・目地の品質を管理した経験として、最も適切な内容はどれか。

- ア．職長ごとの好みで判断する。
- イ．完成後に初めて色を確認する。
- ウ．外観は主観的なので品質管理対象から外す。
- エ．施工前に承認見本や試験施工で判定基準を共有し、本施工も同じ基準で確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：判定がばらつく。
- イ：手戻りの原因になる。
- ウ：見本等で管理可能である。
- エ：見本によって関係者間の評価基準をそろえている。

総合解説：外観品質は見本・試験施工・限度見本などで判定基準を事前共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

品質不良を経験記述に用いる場合の構成として、最も適切なものはどれか。

- ア．不良現象、影響範囲、原因、当該箇所の是正、同種不良を防ぐ再発防止策を分けて記述する。
- イ．不良原因を調べず完成結果だけを書く。
- ウ．是正と再発防止を同じ意味として扱う。
- エ．責任者名の記載を中心にする。

答え・解説

正答：ア

- ア：品質管理の一連の問題解決プロセスを示している。
- イ：判断過程が分からない。
- ウ：現物修正と将来予防は区別する。
- エ：個人非難より技術的原因分析が重要。

総合解説：品質不良への対応は「検出→影響確認→原因分析→是正→再発防止」で整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022

6-1 施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

品質管理記録を経験記述の裏付けとして示す場合、最も適切なものはどれか。

- ア．合格した値だけを残し不合格値を削除する。
- イ．検査日、測定位置、規格値、実測値、判定、是正内容を追跡できるよう記録したと説明する。
- ウ．測定場所を記載しない。
- エ．結果を口頭で共有し記録しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：品質記録の信頼性を損なう。
- イ：客観的な品質証拠として追跡可能な記録になっている。
- ウ：再確認できない。
- エ：引渡し後の証拠が残らない。

総合解説：品質管理では測定結果だけでなく、測定条件と判定・是正まで記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

高所作業で墜落リスクを管理した経験を答案化する。管理能力が最も具体的に伝わる記述はどれか。

- ア．「安全第一を徹底した」とだけ書く。
- イ．保護具名だけを列挙する。
- ウ．対象作業の危険要因、災害の想定、実施した低減措置、確認方法を具体的に記述する。
- エ．事故がなかったという結果だけを書く。

答え・解説

正答：ウ

- ア：具体策が不明。
- イ：設備・作業方法の対策が抜ける。
- ウ：危険要因と対策・確認を結び付けている。
- エ：管理行為が示されない。

総合解説：安全経験記述では危険源と対策の因果関係を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

外部足場作業の安全管理経験として、最も適切な記述はどれか。

- ア．フルハーネスを着用すれば手すりは不要とする。
- イ．足場点検は組立て時だけ行い変更後は確認しない。
- ウ．作業員が慣れているため端部開口を放置する。
- エ．作業床・手すり等を点検し、足場の変更箇所も再点検して、墜落防止設備を優先したうえで必要な墜落制止用器具を使用する。

答え・解説

正答：エ

- ア：個人用保護具だけに依存しない。
- イ：変更後も安全性確認が必要。
- ウ：慣れは墜落リスクを消さない。
- エ：設備的対策を優先し、状態変化時にも点検する安全管理となっている。

総合解説：墜落防止は作業床・手すり等の設備対策を基本に、必要な保護具を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

クレーン揚重作業の安全管理経験として、最も適切な内容はどれか。

- ア．吊荷重量・作業半径・地盤を確認し、合図者を定め、吊荷下への立入禁止と作業前打合せを実施した。
- イ．吊荷下を近道として通行させる。
- ウ．合図者を複数人が同時に担当する。
- エ．最大能力以内なら設置地盤は確認しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：揚重能力、転倒防止、合図、立入管理を具体的に管理している。
- イ：落下・接触災害の危険がある。
- ウ：指示混乱を招く。
- エ：地盤条件は安定性に影響する。

総合解説：揚重作業は機械能力だけでなく、周辺立入と合図系統まで一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

掘削作業の安全管理として、経験記述に適した内容はどれか。

- ア．崩壊兆候があっても作業を続ける。
- イ．地盤・地下水・埋設物を確認し、法面や土止めの状態を点検して、崩壊兆候時の退避・作業中止基準を定めた。
- ウ．土止め支保工の変形は完成後に確認する。
- エ．雨後も掘削面を点検しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：重大災害につながる。
- イ：掘削条件と崩壊防止・緊急判断を具体的に結び付けている。
- ウ：施工中点検が必要。
- エ：降雨後は条件変化に注意する。

総合解説：掘削では地山や支保工の変化を監視し、異常時に停止できる管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

火気を使用する溶接・切断作業の安全管理として、最も適切な記述はどれか。

- ア．火花が見えなくなれば直ちに無人とする。
- イ．可燃物が近くても作業者が注意すればよい。
- ウ．可燃物を除去・養生し、消火器等を準備し、火花飛散範囲と作業後の残火を確認する。
- エ．消火器は火災発生後に用意する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：残火による火災があり得る。
- イ：物理的な除去・防護が必要。
- ウ：火災発生源と延焼経路を事前に管理し、作業後確認まで含めている。
- エ：事前準備が必要。

総合解説：火気作業は「着火させない」「広げない」「残さない」を具体策に落とす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

猛暑期の施工経験について安全管理を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

- ア．全員に同じ作業量を課し体調確認をしない。
- イ．水だけを大量に飲ませ休憩を減らす。
- ウ．本人が倒れるまで自己申告を待つ。
- エ．作業環境と作業者の状態を確認し、休憩・水分塩分・作業時間調整、体調不良者の報告・離脱手順を定める。

答え・解説

正答：エ

- ア：個人差や暑熱負荷を考慮していない。
- イ：休憩・塩分等も重要。
- ウ：早期発見体制が必要。
- エ：予防と早期発見・重篤化防止まで含めた管理になっている。

総合解説：熱中症対策は作業環境・作業管理・健康管理・緊急対応を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

市街地の外壁改修で第三者災害防止を安全経験記述に含める場合、最も適切なものはどれか。

- ア．歩行者動線と工事車両動線を分離し、落下物防護・仮囲い・出入口誘導を実施し日々点検した。
- イ．現場作業員が保護帽を着用したので公道側対策は不要とする。
- ウ．歩行者へ注意を呼びかけるだけで動線を分けない。
- エ．第三者災害は警察だけの責任とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：現場外の第三者に対する落下・接触リスクを具体的に管理している。
- イ：第三者は現場保護具を着用しない。
- ウ：可能な範囲で物理・運用的分離が必要。
- エ：施工者にも公衆災害防止責任がある。

総合解説：建設現場の安全管理は作業員だけでなく、通行人・近隣利用者も対象とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030

6-1 施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

施工途中で作業方法が変更された場合の安全管理として、最も適切な記述はどれか。

- ア．当初のリスクアセスメントがあるので再確認しない。
- イ．変更後の作業について危険性を再評価し、追加対策を決めて関係者へ手順と役割を周知してから着手する。
- ウ．作業班長だけ知っていればよい。
- エ．工程遅延中なら安全対策を一部省略する。

答え・解説

正答：イ

- ア：条件変更でリスクも変わる。
- イ：変更による新たな危険を再評価し、手順へ反映している。
- ウ：作業者全体への周知が必要。
- エ：安全を犠牲にしてはならない。

総合解説：リスクアセスメントは一度限りではなく、作業条件変更時にも見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

外壁工事が降雨で2日中止となった。最も適切な工程対応はどれか。

- ア．雨天でも外壁作業を強行する。
- イ．中止した2日を工程記録から除外する。
- ウ．安全・品質基準を維持し、屋内先行作業や後続工程の組替え、予備日の使用を検討する。
- エ．品質検査を省略して遅れを取り戻す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：品質・安全リスクが高い。
- イ：実績工程を正しく把握できない。
- ウ：天候による中止を受け入れつつ安全・品質を損なわない回復策を検討する。
- エ：必要な確認は維持する。

総合解説：天候遅延では代替作業・工程再配列・予備日を用いて回復する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

内装材の納入が予定より1週間遅れると判明した。最初に行う工程管理として適切なものはどれか。

- ア．全工種に残業を指示する。
- イ．影響分析せず竣工日延期を決める。
- ウ．材料到着まで現場全体を停止する。
- エ．対象作業が後続工程と竣工日に与える影響を確認し、代替材・納期短縮・先行可能作業を検討する。

答え・解説

正答：エ

- ア：無関係な工種まで負担が増える。
- イ：まず影響と回復余地を確認する。
- ウ：先行可能作業がある場合がある。
- エ：遅延の影響範囲を把握して原因に合う対策を選ぶ。

総合解説：資材遅延はクリティカル工程かどうかを確認し、調達・代替・工程組替えを検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

前工程の軽量下地が遅れ、ボード張りが着手できない。適切な対応はどれか。

- ア．遅延原因と残作業量を把握し、施工区画を分けて完了部分から後続工事を開始できるか検討する。
- イ．ボード工が未完成下地へ施工する。
- ウ．前工程を確認せず後続工を増員する。
- エ．遅延を記録せず予定工程のままとする。

答え・解説

正答：ア

- ア：前工程と後工程の引渡し条件を確認し部分的な並行化を検討する。
- イ：品質不良の原因になる。
- ウ：着手条件が満たされない。
- エ：進捗差異を管理できない。

総合解説：工程回復では作業の分割・区画引渡しにより安全に並行化できる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

施工中に設計変更が発生し、関連工事の図面確定が3日遅れた。最も適切な対応はどれか。

- ア．旧図面のまま施工を続ける。
- イ．変更範囲と関連工程を整理し、未確定部分を止めつつ影響しない作業を先行し、更新工程を関係者へ共有する。
- ウ．全工事を一律停止する。
- エ．変更影響を協力会社へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

- ア：手戻りの危険が高い。
- イ：誤施工を防ぎながら影響範囲を限定して工程を再編する。
- ウ：影響しない作業まで止める必要はない。
- エ：調整不良の原因となる。

総合解説：設計変更では情報確定前の誤施工防止と、非影響作業の継続を両立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

承認図の返却が遅れて製作着手できない。工程管理者の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．返却まで何もせず待つ。
- イ．未承認図で製作を開始する。
- ウ．必要承認日と製作・納入リードタイムを明示して早期協議し、他の承認済み製作を先行する。
- エ．承認工程を実施工程表から外す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：回復機会を失う。
- イ：手戻りリスクがある。
- ウ：承認を工程上の作業として管理し期限と影響を可視化する。
- エ：承認待ちも工程制約である。

総合解説：図面・材料承認は調達工程の一部として必要日を逆算する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

内装工事の人員が計画の7割しか確保できない。最も適切な回復策はどれか。

- ア．人数不足分だけ作業時間を無制限に延長する。
- イ．技能を問わず大量の未経験者を投入する。
- ウ．安全教育を省略して作業時間を確保する。
- エ．作業量、施工区画、技能、作業スペースを確認し、増員・応援・作業順変更の効果を比較する。

答え・解説

正答：エ

- ア：労務・疲労上の問題がある。
- イ：品質・安全が低下し得る。
- ウ：必要な教育は省略できない。
- エ：資源制約を把握し生産性・安全・品質を含めて回復策を選ぶ。

総合解説：増員はスペースや技能がボトルネックの場合、単純比例で工程短縮しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

揚重機が故障し半日使用できない。適切な工程対応はどれか。

ア．修理見込みと揚重依存作業を確認し、揚重を使わない作業へ切り替え、復旧後の優先吊りを再計画する。

イ．故障機を安全装置を解除して使用する。
ウ．全員を待機させ代替作業を検討しない。
エ．吊荷を人力で無理に運ぶ。

答え・解説

正答：ア

ア：設備故障時は安全を守りながら代替作業と復旧後の優先順位を調整する。
イ：重大災害の危険がある。
ウ：非依存作業を活用できる。
エ：重量物運搬として不適切。

総合解説：機械故障の遅延は、代替資源と作業切替で影響を局限する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

コンクリート打設予定日に強風が予想され、ポンプ車のブーム使用に支障がある。最も適切な判断はどれか。

ア．予定日を守るため危険な条件でも打設する。
イ．安全条件を満たさない場合は打設方法・日程を見直し、打設区画・生コン手配・後工程への影響を再調整する。
ウ．生コンを到着させてから判断する。
エ．安全基準を一時的に緩める。

答え・解説

正答：イ

ア：重大事故の危険がある。
イ：安全条件を優先し、関連する調達・工程を早期に再調整する。
ウ：キャンセル・待機損失を増やす。
エ：安全基準は工程都合で緩和しない。

総合解説：不可逆性の高い打設作業は、実施可否を早めに判断して影響を最小化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

内装仕上げの複数工種が同一階へ集中し、作業効率が低下している。適切な対応はどれか。

- ア．さらに全工種を同時投入する。
- イ．共用通路へ材料を増やして置く。
- ウ．ゾーニングと作業時間を再調整し、材料搬入・作業順・検査を区画単位で流す。
- エ．工程表を変えず各社の自主調整に任せる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：混雑が悪化する。
- イ：物流障害と安全リスクが増える。
- ウ：作業密度を下げ、流れをつくることで生産性と安全を改善する。
- エ：統括調整が必要。

総合解説：遅延回復では作業員数だけでなく作業空間と物流の制約も管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

中間検査で不合格となり次工程へ進めない。最も適切な工程対応はどれか。

- ア．不合格でも隠蔽して後工程へ進む。
- イ．検査結果を記録から削除する。
- ウ．是正せず検査担当者の変更を求める。
- エ．不適合を是正して再検査を受ける一方、影響範囲外の作業を進め、工程表へ是正期間を反映する。

答え・解説

正答：エ

- ア：品質不良を流出させる。
- イ：記録の信頼性を損なう。
- ウ：原因解決にならない。
- エ：品質要求を満たした上で、影響外作業の継続により遅延を抑える。

総合解説：検査不合格時は品質を犠牲にせず、工程影響を切り分けて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

外部サッシの製作納期が長く、躯体完了後の工程に影響しそうである。最も適切な事前対策はどれか。

- ア．施工図承認・発注・製作・搬入の必要日を逆算し、長納期品として早期に進捗管理する。
- イ．躯体完成後に初めて発注する。
- ウ．納期はメーカー任せとし工程表へ載せない。
- エ．搬入日だけ管理して製作承認は管理しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：長納期品の調達工程を施工工程と一体で管理している。
- イ：工程遅延リスクが高い。
- ウ：調達も工程の一部である。
- エ：承認遅延が製作開始へ影響する。

総合解説：工程管理は現場作業だけでなく、図面承認・製作・物流を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

遅延回復のため夜間揚重を追加する案を検討している。最も適切な判断はどれか。

- ア．昼間と同じ手順なら追加対策不要とする。
- イ．照明、騒音、勤務時間、合図・誘導、周辺交通を再評価し、安全・環境条件を満たせる場合に実施する。
- ウ．安全打合せを省略して時間を確保する。
- エ．作業員の疲労は工程と無関係とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：視認性や周辺条件が異なる。
- イ：時間帯変更で生じる新しいリスクを評価して実施可否を判断する。
- ウ：安全管理を省略できない。
- エ：疲労は災害リスクに関係する。

総合解説：工程回復策そのものが新たな安全・環境リスクを生まないか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

同じ職種の人員を増やして工程短縮を図る場合、最も適切な判断はどれか。

- ア．人数を2倍にすれば期間は必ず半分になる。
- イ．増員時は手順説明を省略する。
- ウ．作業スペース、分担、材料供給、前後工程との干渉を確認し、増員効果が得られる範囲で配置する。
- エ．狭い場所でも可能な限り人数を投入する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：施工能率は単純比例しない。
- イ：品質・安全のため教育が必要。
- ウ：生産性が資源制約で頭打ちになる可能性を考慮している。
- エ：混雑で生産性・安全性が悪化する。

総合解説：増員は有効な場合があるが、作業密度と供給能力を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044

6-2 工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

全体工程が3日遅れている。回復策の優先順位を決めるとき最も適切なものはどれか。

- ア．余裕のある作業から優先して増員する。
- イ．全作業を同じ割合で短縮する。
- ウ．遅れていない作業も一律に残業させる。
- エ．竣工日に影響する経路の作業を特定し、その工程を中心に短縮・並行化・資源追加を検討する。

答え・解説

正答：エ

- ア：工期短縮効果が小さい。
- イ：作業ごとの制約を無視している。
- ウ：無駄な負荷を増やす。
- エ：工期へ直結する作業へ重点的に対策を配分する。

総合解説：工程回復はクリティカルな作業を見極め、限られた資源を重点投入する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

コンクリート脱型後に豆板が見つかった。最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．範囲・深さ・鉄筋露出等を確認し、原因と構造影響を評価して補修方法を決める。
- イ．表面を直ちにモルタルで隠す。
- ウ．写真を残さず仕上げで覆う。
- エ．原因調査せず同じ打設方法を続ける。

答え・解説

正答：ア

- ア：不良を隠す前に状態・影響・原因を確認する。
- イ：影響評価ができない。
- ウ：記録と追跡性を失う。
- エ：再発のおそれがある。

総合解説：不良発見時は現象確認→影響評価→原因分析→是正の順で対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

配筋検査でかぶり不足が判明した。適切な対応はどれか。

- ア．そのまま打込み後に補修する。
- イ．コンクリート打込み前にスペーサーや配筋位置を是正し、再確認後に打込みへ進む。
- ウ．検査記録だけ書き換える。
- エ．仕上げ厚を増やせば構造上問題ないと判断する。

答え・解説

正答：イ

- ア：後補修では所定かぶりを確保できない。
- イ：不可視化前に配筋位置を是正して適合確認する。
- ウ：不正な記録である。
- エ：かぶりは鉄筋とコンクリートの関係で決まる。

総合解説：隠蔽前に是正できる不適合は次工程へ流さない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

高力ボルト締付け後の確認でマーキングのずれが異常なボルトが見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．異常を塗装で隠す。
- イ．ナットを追加で感覚締めする。
- ウ．当該ボルトの締付け状態と施工記録を確認し、規定に従って交換・再施工等を判断する。
- エ．同じ箇所の他ボルトは確認しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：品質不良を隠している。
- イ：所定軸力を保証できない。
- ウ：施工状態を確認し、接合性能を保証できる方法で是正する。
- エ：同一作業条件の範囲も確認する必要がある。

総合解説：接合部不良は独断で追締めせず、施工基準に基づく処置と範囲確認を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

屋上防水の試験で漏水が確認された。適切な対応はどれか。

- ア．室内の漏水跡の真上だけを塗り足す。
- イ．試験結果を無視して保護層を施工する。
- ウ．漏水箇所を乾燥させず仕上げで覆う。
- エ．漏水位置だけでなく端部・継目・貫通部など侵入経路を調べ、原因箇所を補修して再確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：侵入口と漏出位置は異なる場合がある。
- イ：不良を隠蔽することになる。
- ウ：再発リスクが高い。
- エ：水みちを考慮して原因箇所を特定し、再試験まで行う。

総合解説：防水不良は原因特定と補修後の再確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

外壁タイルの打診で局部的な浮きが見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．浮き範囲をマーキングし、原因と周辺への広がりを確認して適切な補修を行い、補修後も確認する。
- イ．浮き音が小さければ無記録で放置する。
- ウ．見た目が良ければ合格とする。
- エ．浮き部の上へ塗装して隠す。

答え・解説

正答：ア

- ア：範囲確認と補修後確認まで含む。
- イ：剥落リスクを残す。
- ウ：内部浮きは外観だけで判断できない。
- エ：接着不良を解消しない。

総合解説：仕上げの不適合は局所補修だけでなく、同様施工範囲へ水平展開して確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

床仕上げ前の下地レベル測定で一部が許容範囲外だった。適切な対応はどれか。

- ア．仕上げ材で無理に吸収する。
- イ．規格値と測定位置を確認し、原因を特定して下地補修後に再測定する。
- ウ．良い測点だけを記録する。
- エ．測定器の値を修正して合格とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：仕上げ不良につながる。
- イ：不適合を客観的に記録し、是正後に再確認する。
- ウ：偏った判定になる。
- エ：記録改ざんである。

総合解説：出来形不良は次工程へ持ち越さず、原因と補修範囲を確認して是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

塗装面に広範囲のはがれが生じた。再塗装前の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．剥がれの上から同じ塗料を厚塗りする。
- イ．原因を調べず上塗りだけ追加する。
- ウ．素地の含水・汚れ・下塗り適合・乾燥時間など原因を調べ、原因を除去してから塗装系を再施工する。
- エ．施工記録を破棄して再塗装する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：再剥離しやすい。
- イ：再発防止にならない。
- ウ：付着不良の根本原因を除去して再施工する。
- エ：原因分析に必要な記録を失う。

総合解説：表面補修だけでなく、下地・材料・工程の原因を除去する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

外部サッシ周りから散水試験で漏水した。適切な対応はどれか。

- ア．室内側だけシーリングを増し打ちする。
- イ．漏水を記録せず引渡す。
- ウ．散水量を減らして合格扱いとする。
- エ．枠周囲シール、防水層との取合い、水抜き、ガラス周りを区分して確認し、原因部を補修後に再試験する。

答え・解説

正答：エ

- ア：水の侵入口を止められない可能性がある。
- イ：不適合を残す。
- ウ：試験条件を変えてはならない。
- エ：漏水経路を切り分け、性能を再確認する。

総合解説：取合い部の不良は原因箇所ごとに切り分けて再試験する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

杭施工記録で支持層到達を確認できない杭が1本見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．当該杭の施工データ・地盤資料を再確認し、支持性能への影響を評価して必要な追加確認・措置を協議する。
- イ．完成後見えないので問題なしとする。
- ウ．記録を推定値で埋める。
- エ．他の杭が正常なら自動的に合格とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：支持性能の根拠が不足しているため客観資料で確認し、必要なら追加措置を取る。
- イ：重要な品質証拠が不足する。
- ウ：記録改ざんになる。
- エ：個々の杭の確認が必要。

総合解説：不可視工事で記録不備がある場合は、性能確認方法を技術的に再検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054

6-2 工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

同じ種類の仕上げ不良が複数階で繰り返し発生している。最も適切な対応はどれか。

- ア．各階を別件として補修だけ行う。
- イ．個別補修に加え、共通する材料・手順・教育・下地条件を分析し、施工標準を修正して再発防止する。
- ウ．作業員個人の注意不足だけで終わらせる。
- エ．不良率が低ければ原因分析しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：同じ不良が再発する。
- イ：共通原因を分析し工程全体へ対策を水平展開している。
- ウ：管理上の根本原因を見逃す。
- エ：繰り返し不良は改善対象である。

総合解説：反復不良は局所是正だけでなく、共通原因と管理システムを改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

柱の位置を測定したところ、一部が設計位置からずれている。出来形判定として最も適切なものはどれか。

- ア．見た目で問題なければ合格とする。
- イ．最も良い測定値だけを採用する。
- ウ．設計値・許容範囲・測定方法を確認し、実測値が基準を満たすか客観的に判定する。
- エ．測定せず施工者の申告で合格とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：客観性がない。
- イ：偏った判定になる。
- ウ：設計条件と実測値を同じ基準で比較している。
- エ：出来形確認にならない。

総合解説：出来形判定は規格値と所定の測定方法に基づき、実測値で判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

スラブ厚さの出来形を確認する場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．中央1点だけ測って全面を合格とする。
- イ．仕上げ厚を含めて構造スラブ厚さとする。
- ウ．設計図の寸法だけで完成厚さを判断する。
- エ．所定の測定箇所・方法で実測し、設計厚さと許容範囲に対して適否を判定する。

答え・解説

正答：エ

- ア：代表性が不足する。
- イ：対象となる出来形を混同している。
- ウ：実測確認が必要である。
- エ：測定対象と基準を明確にして判定している。

総合解説：出来形は何をどこでどう測るかを定め、設計値との比較で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

設備開口の位置が設計図と異なっていることが判明した。出来形対応として適切なものはどれか。

- ア．位置ずれ量と構造・設備への影響を確認し、必要な正方法を協議して再確認する。
- イ．設備が通ればそのまま合格とする。
- ウ．構造図を確認せず開口を拡大する。
- エ．測定記録を修正して設計位置と一致させる。

答え・解説

正答：ア

ア：単なる寸法差ではなく機能・構造への影響も評価している。
イ：要求位置には理由がある。
ウ：構造性能を損なう可能性がある。
エ：記録改ざんである。

総合解説：出来形不適合は量だけでなく、性能への影響を評価して是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

鉄骨柱脚のアンカーボルト位置確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．鉄骨建方後に初めて位置を測る。
- イ．建方前に基準墨から位置・間隔・突出長等を測定し、鉄骨建方に支障がないか確認する。
- ウ．ボルトが入らなければ現場で無断切断する。
- エ．目視だけで中心位置を判定する。

答え・解説

正答：イ

ア：手戻りが大きくなる。
イ：後工程への影響が大きい項目を建方前に実測している。
ウ：接合性能を損なう。
エ：精度確認として不十分。

総合解説：重要な取合い部の出来形は、後工程へ進む前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

床仕上げの基準高さを確認するため、複数点のレベル測定を行った。判定として最も適切なものはどれか。

- ア．平均値だけが合えば各点の規格外を無視する。
- イ．高い点だけ記録する。
- ウ．基準点との関係を保って各測点を記録し、規格値を外れた箇所は範囲を確認して是正する。
- エ．測定器ごとに別の基準高さを使う。

答え・解説

正答：ウ

- ア：局部不良を見逃す。
- イ：データ選別になる。
- ウ：測点ごとの適否と範囲を同一基準で評価している。
- エ：比較不能になる。

総合解説：平均だけでなく、個々の測点が要求範囲を満たすか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

鉄筋かぶり厚さの出来形確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．仕上げモルタル厚をかぶりに加算する。
- イ．打込み後に外観だけで推測する。
- ウ．最小値を下回っていても平均が良ければ合格とする。
- エ．打込み前にスペーサーや鉄筋位置を実測・確認し、必要に応じて探查記録等と合わせて所定かぶりを確保する。

答え・解説

正答：エ

- ア：かぶりの定義を誤っている。
- イ：直接確認できる時点で管理する。
- ウ：局部不足も耐久性へ影響する。
- エ：構造体コンクリートのかぶりを対象に所定位置で確認している。

総合解説：出来形管理では対象寸法の定義を正しく理解して測定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

壁の鉛直精度測定で一部に大きな偏りが見つかった。最も適切な判断はどれか。

- ア．測定器・基準点の異常がないか確認したうえで再測定し、実際の不適合なら影響範囲と補修方法を検討する。
- イ．最初の値を無条件で破棄する。
- ウ．測定値を平均化して規格内にする。
- エ．仕上げで隠れるので無視する。

答え・解説

正答：ア

- ア：測定誤差の確認と実体の不適合評価を切り分けている。
- イ：根拠なくデータを排除している。
- ウ：不正な処理である。
- エ：仕上げや取合いに影響する。

総合解説：異常値は測定ミスか実際の不良かを確認し、データを恣意的に扱わない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062

6-2 工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

出来形測定結果の一部が規格外だが、他の多数点は規格内だった。最も適切な対応はどれか。

- ア．多数決で全体を合格とする。
- イ．規格外点の位置・程度・原因を確認し、必要な追加測定で範囲を特定して是正可否を判断する。
- ウ．規格外値だけ削除する。
- エ．平均値が規格内なら局部不良を無視する。

答え・解説

正答：イ

- ア：要求品質を満たさない箇所を見逃す。
- イ：規格外の局部不良を範囲確認して技術的に判定している。
- ウ：記録の信頼性を損なう。
- エ：平均では局部性能を保証できない。

総合解説：出来形判定は測定値の分布も確認し、不適合箇所を適切に処置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

足場端部から作業員が墜落した。手すりが一時撤去され、復旧確認も行われていなかった。主な管理上の原因として最も適切なものはどれか。

- ア．被災者の年齢だけ。
- イ．天候が晴れていたこと。
- ウ．墜落防止設備の変更管理と復旧確認が機能していなかったこと。
- エ．作業服の色。

答え・解説

正答：ウ

- ア：原因分析として不十分。
- イ：災害原因とならない。
- ウ：直接的な危険状態を生んだ管理上の欠陥を捉えている。
- エ：災害原因とならない。

総合解説：災害分析では個人の不注意だけでなく、設備・手順・監督の仕組みを調べる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

脚立上で両手作業中にバランスを崩して転落した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．被災者が運が悪かったとする。
- イ．脚立の色だけ調べる。
- ウ．作業時間帯だけを原因とする。
- エ．作業に対して脚立という作業床の選定が適切だったか、姿勢・三点支持・代替設備を検討する。

答え・解説

正答：エ

- ア：再発防止につながらない。
- イ：原因と無関係。
- ウ：単一要因へ決めつけている。
- エ：作業方法と設備選定の適合性を分析している。

総合解説：事故原因は「人」だけでなく「作業方法・設備・環境・管理」から多面的に分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

床開口部から墜落事故が発生した。ふたは置かれていたが固定されていなかった。最も適切な原因分析はどれか。

- ア．開口部養生の固定方法と表示・点検の基準が不十分だったこと。
- イ．ふたが存在したので管理上問題はなかった。
- ウ．作業員が開口部を知らなかったことだけを原因とする。
- エ．事故後にふたを固定すれば原因分析は不要。

答え・解説

正答：ア

ア：設備対策の実効性と管理基準まで原因として捉えている。
イ：移動するふたでは墜落防止機能が不足する。
ウ：周知だけでは設備不備を解消しない。
エ：原因を理解しないと再発する。

総合解説：安全設備は「あるか」だけでなく、正しく機能する状態かを分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

クレーン旋回中の吊荷が建物に接触し、荷が振れた。主な原因分析として適切なものはどれか。

- ア．吊荷の色だけ確認する。
- イ．作業半径・旋回経路・障害物の事前確認、合図・誘導の方法を分析する。
- ウ．クレーンが新しかったので原因なしとする。
- エ．被災者がいなければ原因分析しない。

答え・解説

正答：イ

ア：接触原因と無関係。
イ：揚重経路と作業指揮の管理要因を確認している。
ウ：機械の新旧だけで安全性は決まらない。
エ：ヒヤリハットでも原因分析は有効。

総合解説：物損やヒヤリハットも重大災害の前兆として原因を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

高所から工具が落下し、下を通行していた作業員の近くに落ちた。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．工具が軽かったことだけを確認する。
- イ．被害がなかったので原因分析しない。
- ウ．工具の落下防止、作業上下の立入調整、幅木・防護設備の不足を確認する。
- エ．下の作業員の歩く速さを主原因とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：重量だけでは再発防止にならない。
- イ：重大事故の可能性があった。
- ウ：落下源と受け側の両方の防護を分析している。
- エ：管理上の原因を見逃す。

総合解説：落下物災害は「落とさない」と「下へ入れない」の二重対策で考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

掘削溝の側面が崩れ作業員が負傷した。前夜に大雨があった。原因分析として適切なものはどれか。

- ア．雨量だけを原因として現場管理は調べない。
- イ．作業員の靴だけ調べる。
- ウ．事故後に埋め戻せば分析不要。
- エ．降雨後の地山状態・湧水・土止め点検と作業再開判断が適切だったか確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：天候を予見した点検・中止判断が必要。
- イ：主原因と考えにくい。
- ウ：再発防止につながらない。
- エ：自然条件の変化を管理へ反映できたかを分析している。

総合解説：自然現象自体ではなく、変化を検知し対応する管理が機能したかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

バックホウ後退時に誘導員と接触した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．機械の死角、誘導員位置、合図方法、立入区域、後退ルートを確認する。
- イ．運転者だけを責めて終わる。
- ウ．誘導員を増やせば原因調査不要。
- エ．機械速度だけを唯一の原因とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：機械・人・動線・合図のシステムとして分析している。
- イ：個人原因だけでは再発防止が弱い。
- ウ：配置方法自体を検討する必要がある。
- エ：複数要因が関係する場合がある。

総合解説：重機接触事故は死角と人車分離、合図系統を重点的に分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

携帯用グラインダー使用中に砥石が破損し負傷した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．作業者の握力だけ測る。
- イ．砥石の適合・点検、保護カバー、使用方法、教育、回転数条件を確認する。
- ウ．負傷部位だけ確認し機械状態は調べない。
- エ．工具は市販品なので原因にならないとする。

答え・解説

正答：イ

- ア：原因分析にならない。
- イ：工具そのものと使用条件・教育を総合している。
- ウ：設備原因を見逃す。
- エ：市販品でも不適切使用で事故は起こる。

総合解説：機械災害では機器状態・保護装置・手順・教育を一体で分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

仮設電源を使用中に作業員が感電した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．作業員の体質だけを原因とする。
- イ．電圧表示の色を確認する。
- ウ．漏電保護、接地、配線損傷、水濡れ、使用前点検、電源遮断手順を確認する。
- エ．感電後に乾燥させれば原因分析不要。

答え・解説 正答：ウ

- ア：個人差では設備不備を説明できない。
- イ：原因と無関係。
- ウ：電気設備と環境・点検管理を調査している。
- エ：再発のおそれが残る。

総合解説：感電事故は電源側の保護と配線状態、湿潤環境を重点的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

溶接終了数時間後に近くの可燃物から火災が発生した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．溶接終了後なので工事と無関係とする。
- イ．火災が小規模なら原因分析しない。
- ウ．溶接者の経験年数だけを見る。
- エ．火花飛散範囲、可燃物養生、消火設備、作業後の残火確認体制を調べる。

答え・解説 正答：エ

- ア：火気作業後の残火が原因となり得る。
- イ：小規模でも再発防止が必要。
- ウ：経験年数だけでは不十分。
- エ：遅れて発火するリスクと作業後管理を分析している。

総合解説：火気災害は作業中だけでなく、作業後監視まで管理対象である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

真夏の屋上作業で作業員が熱中症となった。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．暑熱環境、作業強度、休憩、水分塩分、暑熱順化、体調確認、報告体制を確認する。
- イ．本人が水を飲まなかったことだけを原因とする。
- ウ．気温だけ確認し作業時間を調べない。
- エ．倒れた作業員以外の状況は確認しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：複数の熱中症リスクと管理体制を総合分析している。
- イ：個人原因だけに偏っている。
- ウ：作業負荷も重要。
- エ：同じ環境の作業員も確認する。

総合解説：熱中症は環境・作業・健康・管理の複合要因として分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074

6-3 安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

工事車両が現場ゲートから出る際、歩道上の自転車と接触した。原因分析として最も適切なものはどれか。

- ア．自転車側だけの責任とする。
- イ．ゲートの見通し、誘導員、歩車分離、出庫ルール、ミラー・警報等の対策を確認する。
- ウ．車両運転者の注意力だけを原因とする。
- エ．現場外なので工事管理の対象外とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：施工者側の公衆安全対策も必要。
- イ：第三者と工事車両が交差する場所の管理条件を分析している。
- ウ：設備・誘導体制も分析する。
- エ：工事に起因する出入口は管理対象。

総合解説：第三者災害では現場境界・出入口のリスクを施工管理として分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

労働災害の再発防止策を考える際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．注意喚起ポスターだけ増やす。
- イ．被災者を別現場へ移せば再発しないと考える。
- ウ．被災者の注意だけに頼らず、設備・作業方法・教育・監督の原因を分析し、より上位の対策から実施する。
- エ．原因分析せず同じ手順を続ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：単独では効果が限定的。
- イ：仕組みが変わらない。
- ウ：原因に対応した組織的対策を優先している。
- エ：再発可能性が残る。

総合解説：再発防止は個人注意よりも危険源除去・設備対策・標準化を重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

足場からの墜落事故後の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故箇所だけ手すりを直して終了する。
- イ．被災者以外には周知しない。
- ウ．安全帯の着用だけを強化して足場設備は変えない。
- エ．同種足場を一斉点検し、手すり等の復旧ルール、変更時点検、作業開始前確認を標準化する。

答え・解説

正答：エ

- ア：他箇所に同じ原因が残る。
- イ：組織学習にならない。
- ウ：設備的対策を優先すべきである。
- エ：同種箇所へ水平展開し、管理手順まで改善している。

総合解説：事故箇所の修理だけでなく、同じ原因が存在する範囲全体へ対策を展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

吊荷接触事故の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．揚重経路を事前確認し、合図者を明確化し、立入禁止範囲と障害物離隔を作業計画へ反映する。
- イ．運転者へ「注意するように」とだけ伝える。
- ウ．事故と同じ場所だけ作業員を減らす。
- エ．合図方法は班ごとに自由とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：作業計画と合図系統を改善している。
- イ：抽象的で再現性がない。
- ウ：原因全体への対策にならない。
- エ：混乱を招く。

総合解説：再発防止では安全な作業条件を標準手順へ組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

掘削崩壊事故後の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故現場だけ埋め戻し他現場は変更しない。
- イ．地盤・降雨・地下水の変化を点検項目化し、異常時の作業中止・退避基準と土止め確認手順を定める。
- ウ．雨天後も通常どおり作業開始する。
- エ．作業員の勤で再開を決める。

答え・解説

正答：イ

- ア：同様にリスクが残る。
- イ：環境変化を検知して停止判断できる仕組みを作っている。
- ウ：条件変化を無視している。
- エ：客観的基準が必要。

総合解説：再発防止は異常の早期発見と作業停止判断まで仕組み化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

重機と作業員の接触事故後の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．運転者へ徐行だけ指示する。
- イ．誘導員を重機の死角に立たせる。
- ウ．人と重機の動線を分離し、交差部の誘導・合図・後退ルールを統一する。
- エ．歩行者通路をなくして自由通行にする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：接触機会が残る。
- イ：危険位置である。
- ウ：接触機会そのものを減らす設備・運用対策を組み合わせている。
- エ：リスクが高まる。

総合解説：人車分離を基本に、交差が避けられない箇所を重点管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

火気作業による火災の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．消火器を増やすだけで可燃物はそのままにする。
- イ．火気作業個人へ任せる。
- ウ．作業終了直後に全員退場する。
- エ．火気使用許可、可燃物除去・防護、消火設備、作業後巡回を手順化し、監督者が確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：着火リスクが残る。
- イ：組織的確認がない。
- ウ：遅延発火へ対応できない。
- エ：予防・初期消火・残火確認を一つの手順にしている。

総合解説：火災再発防止は許可制とチェックリスト等で作業前後を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

グラインダー事故の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．工具選定・砥石適合・保護カバー・始業点検・使用方法を標準化し教育する。
- イ．保護眼鏡だけ配布する。
- ウ．工具点検を事故後1回だけ行う。
- エ．慣れた作業員は手順を免除する。

答え・解説

正答：ア

- ア：機械・保護装置・手順・教育を一体で改善している。
- イ：個人用保護具だけでは不十分。
- ウ：継続的管理にならない。
- エ：熟練でもルールは必要。

総合解説：機械災害は工学的対策と標準作業を組み合わせで再発を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

感電事故後の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．ゴム手袋だけを配る。
- イ．仮設電気の漏電保護・接地・配線保護を点検し、湿潤場所の使用ルールと電源遮断手順を見直す。
- ウ．感電した延長コードだけ廃棄し他を点検しない。
- エ．水場でも同じ配線方法を続ける。

答え・解説

正答：イ

- ア：保護具だけに依存している。
- イ：電源設備と使用環境の双方へ対策している。
- ウ：同種不良が残る。
- エ：環境条件を無視している。

総合解説：電気事故は系統全体の保護と使用条件を見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

熱中症発生後の再発防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．被災者だけ水分摂取を増やす。
- イ．作業環境は変えず自己管理だけを求める。
- ウ．同じ暑熱作業について休憩頻度、作業時間、体調確認、緊急連絡・搬送手順を見直し、全作業員へ周知する。
- エ．発症者がいない班には周知しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：他作業員へ同じリスクが残る。
- イ：管理対策が不足する。
- ウ：同じリスクへ組織的に対策を水平展開している。
- エ：全体周知が必要。

総合解説：健康災害も作業条件と報告・対応体制を改善して再発防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084

6-3 安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

重大災害には至らなかったヒヤリハットを再発防止へ活用する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．負傷者がいないので記録しない。
- イ．報告した作業員を注意するだけにする。
- ウ．件数を減らすため報告を控えさせる。
- エ．発生条件と潜在的な重大結果を分析し、事故になる前に手順・設備・教育へ改善を反映する。

答え・解説

正答：エ

- ア：学習機会を失う。
- イ：個人対策だけでは不十分。
- ウ：隠れたリスクが増える。
- エ：事故の前兆情報を予防管理へ利用している。

総合解説：ヒヤリハットは低コストで重大事故を予防するための重要情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

足場の作業床に手すり欠損を発見した施工管理者の是正指示として、最も適切なものはどれか。

- ア．当該範囲の作業を止めて立入を制限し、手すり等を復旧・点検して安全確認後に再開させる。
- イ．作業員へ注意して通るよう指示して継続する。
- ウ．墜落制止用器具を着ければ欠損を放置してよいとする。
- エ．休憩時間に直すのでそれまで作業を続ける。

答え・解説

正答：ア

- ア：危険状態を除去するまで作業を止め、復旧確認後に再開する指示である。
- イ：危険源が残る。
- ウ：設備対策を放置している。
- エ：即時是正が必要。

総合解説：差し迫った危険を発見したら、まず作業停止・立入制限・是正確認を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

クレーンの定格荷重を超える可能性がある吊荷を揚げようとしている。施工管理者の指示として最も適切なものはどれか。

- ア．少しだけなら試し吊りする。
- イ．揚重を中止し、吊荷重量・作業半径・定格荷重を再確認して安全な方法へ変更する。
- ウ．合図者を増やせば吊ってよいとする。
- エ．作業員が離れていれば過負荷でもよいとする。

答え・解説

正答：イ

- ア：過負荷事故の危険がある。
- イ：機械能力超過の可能性のある作業を止めて条件を再確認している。
- ウ：能力不足は合図人数で解決しない。
- エ：転倒・破損の危険は残る。

総合解説：能力条件が不明・不適合なら作業を開始しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

掘削面に新たな亀裂と湧水増加が見つかった。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．亀裂へ土を詰めて作業を続ける。
- イ．作業員へ早く作業するよう指示する。
- ウ．掘削内作業を中止・退避させ、地山・土止め・排水条件を点検して安全措置を講じるまで再開しない。
- エ．次の定期点検日まで様子を見る。

答え・解説

正答：ウ

- ア：根本原因を確認していない。
- イ：危険を増大させる。
- ウ：崩壊兆候を重大な異常として即時対応している。
- エ：緊急性が高い。

総合解説：現場は正では異常の重大性を判断し、危険な場合は即時停止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

コンクリート打込み直前の配筋検査で主筋位置の誤りが見つかった。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．打込み後に補修するとして続行する。
- イ．写真だけ正しい位置に見えるよう撮る。
- ウ．構造担当へ報告せず現場で主筋を切る。
- エ．打込みを保留し、設計図書に適合するよう配筋を是正して再検査を受ける。

答え・解説

正答：エ

- ア：後施工での是正が困難。
- イ：不正な記録である。
- ウ：無断加工は不可。
- エ：不可逆工程へ進む前に不適合を是正している。

総合解説：品質上の重大不適合も、次工程停止が必要なホールドポイントとなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

防水施工を開始しようとしたところ下地が降雨で濡れていた。施工管理者の指示として適切なものはどれか。

- ア．施工を見合わせ、下地を所定状態で乾燥・清掃して材料の施工条件を満たしたことを確認する。
- イ．工程優先でそのまま塗布する。
- ウ．表面の水だけ拭いて直ちに施工する。
- エ．不良が出たら完成後に補修する。

答え・解説

正答：ア

ア：材料性能を発揮できる施工条件を回復してから作業させる。
イ：付着不良等の原因になる。
ウ：内部水分が残る可能性がある。
エ：予防管理が基本。

総合解説：是正指示は不良を作らないために施工条件を整えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

現場で承認されていない材料へ勝手に変更して施工しようとしている。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．同等に見えるのでそのまま使用する。
- イ．使用を停止し、設計要求との適合性と承認手続きを確認してから使用可否を決める。
- ウ．価格が安ければ承認不要とする。
- エ．施工後に材料名だけ記録する。

答え・解説

正答：イ

ア：性能確認がない。
イ：材料変更を正式な変更管理へ戻している。
ウ：価格だけでは適否を決められない。
エ：事後承認前提は不適切。

総合解説：材料・工法の変更は現場独断で行わず、要求性能と承認を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

通路へ資材が山積みされ、避難・搬送の妨げになっている。最も適切な是正指示はどれか。

- ア．作業終了時に片付けばよいとする。
- イ．通行人が資材をまたげばよいとする。
- ウ．直ちに資材を指定保管場所へ移し、通路幅と避難経路を確保し、再発しない搬入・保管ルールを周知する。
- エ．注意看板だけ置いて資材は残す。

答え・解説

正答：ウ

- ア：作業中の危険が残る。
- イ：転倒・避難障害になる。
- ウ：危険状態を除去し、再発防止の運用ルールまで指示している。
- エ：物理的障害を解消していない。

総合解説：整理整頓の是正も即時対応と保管ルール改善を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092

6-3 安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

協力会社が施工手順を独自に変更し、他工種と干渉している。施工管理者の是正指示として最も適切なものはどれか。

- ア．協力会社の裁量としてそのまま続けさせる。
- イ．他工種へ避けるようだけ指示する。
- ウ．変更内容を記録せず口頭で済ませる。
- エ．当該作業を一旦止め、変更理由と影響を確認し、承認された手順・工程へ整理して関係工種へ再周知する。

答え・解説

正答：エ

- ア：統括管理ができない。
- イ：根本の干渉原因を解決しない。
- ウ：再発防止・追跡性が弱い。
- エ：施工方法の変更を正式な調整・承認プロセスへ戻している。

総合解説：現場是正はその場を収めるだけでなく、計画と実施工の整合を回復させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

発注者から直接請け負った建築一式工事で、下請契約の総額が9,000万円となる。元請が配置すべき技術者として最も適切なものはどれか。

- ア．監理技術者。
- イ．主任技術者だけでよい。
- ウ．技術者の配置は不要である。
- エ．現場代理人だけを置けばよい。

答え・解説

正答：ア

- ア：建築一式工事で下請総額8,000万円以上となる元請は監理技術者を置く。
- イ：監理技術者が必要となる条件である。
- ウ：建設業許可業者の工事現場には技術者配置が必要である。
- エ：現場代理人は主任・監理技術者制度の代替ではない。

総合解説：監理技術者の要否は元請が発注者から直接請け負い、下請へ出す総額が政令基準以上かで判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

発注者から直接請け負った建築一式工事で、下請総額が7,000万円である。技術者配置として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず監理技術者を配置する。
- イ．主任技術者を配置する。
- ウ．下請額があるので技術者は不要である。
- エ．一次下請の主任技術者を元請技術者として扱う。

答え・解説

正答：イ

- ア：監理技術者が必要な下請総額に達していない。
- イ：建築一式の監理技術者基準8,000万円未満なので、元請は主任技術者を配置する。
- ウ：元請にも技術者配置が必要である。
- エ：元請と下請は各自の施工を技術管理する。

総合解説：元請負額の大きさだけでなく、下請総額で主任技術者・監理技術者を区分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

一次下請業者が自ら請け負った工事の一部6,000万円を二次下請へ発注した。この一次下請業者の現場技術者として、原則最も適切なものはどれか。

- ア．元請ではないが下請額が5,000万円を超えるので必ず監理技術者。
- イ．監理技術者補佐だけ。
- ウ．主任技術者。
- エ．技術者は不要。

答え・解説

正答：ウ

- ア：元請でないため、この理由だけで監理技術者とはならない。
- イ：補佐だけで主任技術者の代わりにはならない。
- ウ：監理技術者配置の下請総額基準は発注者から直接請け負う元請に関するもので、下請業者は主任技術者を置く。
- エ：許可業者は請負った工事現場に技術者を置く。

総合解説：二次下請への発注額が大きくても、発注者から直接請け負った元請でなければ監理技術者要件とはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

建設業許可を受けた専門工事業者が、請負金額400万円の工事を施工する。技術者配置について最も適切なものはどれか。

- ア．500万円未満なので主任技術者は不要である。
- イ．現場代理人だけでよい。
- ウ．発注者が民間なら技術者不要である。
- エ．原則として主任技術者を配置する。

答え・解説

正答：エ

- ア：許可不要となる軽微工事の基準と、許可業者の技術者配置義務を混同している。
- イ：現場代理人は別制度である。
- ウ：民間工事でも建設業法の技術者制度は適用される。
- エ：許可を受けた業種の工事を施工する場合、請負金額が軽微でも主任技術者配置が原則である。

総合解説：許可要否の金額基準と、許可業者が現場に置く技術者の義務は分けて考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

公共性のある建築一式工事で請負金額が1億円であり、専任を要する条件に該当する。配置技術者の勤務関係として最も適切なものはどれか。

- ア．請負業者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者を配置する。
- イ．工事ごとに名義だけ借りた外部者を配置する。
- ウ．下請会社の社員を元請の専任技術者として名義登録する。
- エ．現場にこない非常勤者を配置する。

答え・解説

正答：ア

- ア：専任技術者は所属建設業者と直接的・恒常的な雇用関係が必要である。
- イ：名義貸しは適切でない。
- ウ：元請の技術者は元請との雇用関係が必要である。
- エ：専任の趣旨に反する。

総合解説：専任とは名義上の配置ではなく、当該工事の技術管理へ継続的に従事することを意味する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

監理技術者の主な職務として最も適切なものはどれか。

- ア．請負代金の入金処理だけを行う。
- イ．施工計画の作成、工程・品質管理、下請業者への技術上の指導などを行う。
- ウ．発注者の設計責任を代行するだけである。
- エ．労務給与計算だけを行う。

答え・解説

正答：イ

- ア：経理だけが職務ではない。
- イ：監理技術者は工事施工の技術上の管理を担う。
- ウ：設計責任の代行を目的とする制度ではない。
- エ：労務事務だけが職務ではない。

総合解説：主任・監理技術者は施工の技術上の管理を担い、工程・品質・技術指導を統括する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

専任の監理技術者を置く工事で、監理技術者資格者証等の取扱いとして最も適切なものはどれか。

- ア．会社の社員証だけで資格確認を代用する。
- イ．資格確認は竣工後に行えばよい。
- ウ．法令上必要な資格者証等を備え、所要の資格を確認できるようにする。
- エ．他人の資格者証の写しを使用する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：社員証は技術資格の証明ではない。
- イ：配置時点で確認する。
- ウ：専任監理技術者には所定の資格要件と資格者証等の確認が必要である。
- エ：本人の資格を確認する必要がある。

総合解説：技術者配置は人数だけでなく、資格・所属・専任性を証拠資料で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

元請の請負金額が2億円だが、下請総額は3,000万円である。建築一式工事の技術者区分として最も適切なものはどれか。

- ア．請負金額が2億円なので必ず監理技術者となる。
- イ．技術者不要となる。
- ウ．下請の主任技術者を監理技術者とみなす。
- エ．主任技術者となる。

答え・解説

正答：エ

- ア：下請総額が建築一式8,000万円未満である。
- イ：技術者配置は必要。
- ウ：他社技術者で代用できない。
- エ：監理技術者要否は元請負金額そのものではなく、元請が下請に出す総額で判定する。

総合解説：総請負額が大きくても下請総額が監理技術者基準未満なら主任技術者となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

工期途中で主任技術者を交代する必要がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．資格・雇用関係・引継ぎを確認し、必要な発注者手続や施工体制書類の変更を行う。
- イ．後任の資格を確認せず即日交代する。
- ウ．施工体制台帳等は旧技術者名のままとする。
- エ．技術管理の引継ぎを行わない。

答え・解説

正答：ア

- ア：技術者変更時は継続的な技術管理と書類整合を確保する。
- イ：無資格配置の危険がある。
- ウ：実態と書類が不一致になる。
- エ：品質・工程上の情報が途切れる。

総合解説：技術者交代は施工体制の変更であり、資格確認・引継ぎ・関係書類更新を一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102

6-4 法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

主任技術者と現場代理人の関係について最も適切なものはどれか。

- ア．名称が異なるだけで法的役割は完全に同じである。
- イ．役割は異なるが、要件を満たす場合に同一人が兼務することはあり得る。
- ウ．現場代理人を置けば主任技術者は不要になる。
- エ．主任技術者は契約上の代理権だけを担う。

答え・解説

正答：イ

- ア：制度上の役割が異なる。
- イ：主任技術者は技術上の管理、現場代理人は契約上・現場運営上の代理等で役割が異なる。
- ウ：技術者配置義務は消えない。
- エ：主任技術者の主職務は技術管理である。

総合解説：複数の肩書を混同せず、それぞれの法令・契約上の役割を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

民間の建築一式工事を元請として施工し、下請総額が8,500万円となった。元請が作成すべき書類として最も適切なものはどれか。

- ア．作業日報だけ。
- イ．完成図だけ。
- ウ．施工体制台帳と施工体系図。
- エ．近隣説明資料だけ。

答え・解説

正答：ウ

- ア：施工体制把握の法定書類を満たさない。
- イ：完成図とは目的が異なる。
- ウ：建築一式で下請総額8,000万円以上の場合、特定建設業者は施工体制台帳・施工体系図を作成する。
- エ：近隣資料だけでは施工体制を示せない。

総合解説：一定規模以上の下請を使う元請は施工体制を可視化し、下請各社まで把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

公共工事を発注者から直接請け負った元請の施工体制台帳について最も適切なものはどれか。

- ア．下請総額が8,000万円未満なら一切作成しない。
- イ．下請が1社なら作成不要である。
- ウ．竣工後だけ作成する。
- エ．下請代金の総額にかかわらず作成する。

答え・解説

正答：エ

- ア：公共工事では金額に関係なく作成する。
- イ：社数で免除されるものではない。
- ウ：施工中の体制把握に用いる。
- エ：公共工事では入契法により下請総額にかかわらず施工体制台帳等を作成する。

総合解説：公共工事では民間工事より広く施工体制の透明性が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

施工体制台帳に記載する内容として最も適切なものはどれか。

- ア．下請業者名、施工範囲、技術者氏名など。
- イ．元請の広告費だけ。
- ウ．完成建物の販売価格だけ。
- エ．作業員の私的な家族情報だけ。

答え・解説

正答：ア

ア：施工体制台帳は工事に関わる業者・施工範囲・技術者等を把握する台帳である。
イ：施工体制とは無関係。
ウ：施工体制とは無関係。
エ：法定目的と無関係な情報である。

総合解説：施工体制台帳は重層下請構造の実態を把握し、責任関係を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

二次下請を使用する一次下請業者が元請へ行う手続として最も適切なものはどれか。

- ア．元請へ知らせず二次下請を追加する。
- イ．再下請負通知書等により再下請の内容を通知する。
- ウ．口頭で会社名だけ伝えればよい。
- エ．竣工後に初めて通知する。

答え・解説

正答：イ

ア：台帳の実態把握ができない。
イ：元請が施工体制を把握できるよう再下請の契約内容等を通知する。
ウ：必要事項を所定様式等で通知する。
エ：施工中に把握する必要がある。

総合解説：再下請を含む施工体制の変化は元請が速やかに把握できる状態にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

元請の現場で複数の下請業者が同時に作業している。施工体系図を掲示・活用する目的として最も適切なものはどれか。

- ア．工事原価の内訳だけを示す。
- イ．建物平面図の代わりに使用する。
- ウ．元請から下位下請までの施工分担・関係を見える形で示す。
- エ．作業員の給与額を一覧化する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：原価表ではない。
- イ：設計図ではない。
- ウ：施工体系図は下請関係と施工分担を視覚化する。
- エ：賃金台帳ではない。

総合解説：施工体系図により誰がどの工事を担当するかを現場関係者が把握しやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体制台帳の内容と実際の現場体制が異なっていることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．書類は最初に作れば更新不要とする。
- イ．実態の方を無視して書類を優先する。
- ウ．差異を竣工まで放置する。
- エ．実態を確認し、必要な通知を受けて台帳・体系図を速やかに更新する。

答え・解説

正答：エ

- ア：施工中の変化を反映する必要がある。
- イ：書類を実態に合わせる。
- ウ：責任関係が不明確になる。
- エ：台帳は現実の施工体制を示す必要があり、変更時は更新する。

総合解説：施工体制書類は固定資料ではなく、現場体制の変更に追従させる管理資料である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

元請が下請業者を選定する際の確認として最も適切なものはどれか。

- ア．工事内容に必要な建設業許可、技術者資格、施工能力等を確認する。
- イ．最低価格だけで決め、許可業種を確認しない。
- ウ．技術者の有無を確認しない。
- エ．施工範囲を契約書に明示しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適正施工のため許可・技術者・施工能力等を確認する。
- イ：無許可施工等の法令違反につながり得る。
- ウ：技術管理体制の確認が必要。
- エ：責任範囲を明確にする必要がある。

総合解説：下請契約前の適格性確認は施工体制の入口管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110

6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

元請が複数の下請工事を統括する際の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．各下請へ完全に任せ、相互調整しない。
- イ．工種間の工程・施工範囲・安全上の連絡調整を行う。
- ウ．同じ場所で危険な作業が重なっても放置する。
- エ．設計変更情報を一部の下請にだけ伝える。

答え・解説

正答：イ

- ア：干渉・災害・手戻りの原因となる。
- イ：元請には工事全体の施工調整が求められる。
- ウ：作業間連絡調整が必要。
- エ：関係する下請へ情報共有する。

総合解説：施工体制管理は書類作成だけでなく、実際の工種間調整まで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 6-4 法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

公共工事の現場で施工体系図の掲示内容が古く、既に撤退した下請会社が残っていた。最も適切な是正はどれか。

- ア．見栄えに影響しないので放置する。
- イ．新しい下請会社を口頭でだけ紹介する。
- ウ．現況を確認して施工体系図を更新し、関係書類との整合を取る。
- エ．施工体系図そのものを撤去する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：施工体制の透明性が損なわれる。
- イ：書面へ反映が必要。
- ウ：現場の実態と掲示・台帳を一致させる。
- エ：掲示義務等を損なう。

総合解説：施工体制の可視化資料は現時点の実態を正しく示す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

指定地域内で騒音規制法上の特定建設作業を行う予定である。通常の場合の届出として最も適切なものはどれか。

- ア．作業終了後7日以内に警察署へ届出する。
- イ．下請会社が竣工後に国土交通省へ届出する。
- ウ．届出は一切不要である。
- エ．施工者が作業開始7日前までに市町村長へ届出する。

答え・解説 正答：エ

- ア：提出時期・提出先が異なる。
- イ：届出主体・提出先が異なる。
- ウ：対象作業では届出が必要。
- エ：環境省手続案内では指定地域の特定建設作業は開始7日前までに市町村長へ届出する。

総合解説：騒音・振動の特定建設作業は工事開始前の手続を工程に組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

指定地域内で振動規制法上の特定建設作業を行う。通常の届出時期として最も適切なものはどれか。

- ア．作業開始の日の7日前まで。
- イ．作業開始後30日以内。
- ウ．竣工後のみ。
- エ．届出時期の定めはない。

答え・解説

正答：ア

- ア：振動規制法の特定建設作業も通常は開始7日前までに届出する。
- イ：事後届出を原則としない。
- ウ：事前手続である。
- エ：提出時期が定められている。

総合解説：法定届出の期限は工程表上のマイルストーンとして管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

道路上に工事用作業帯を設けて工事を行う場合、道路交通法上の手続として最も適切なものはどれか。

- ア．道路使用許可は不要である。
- イ．工事場所を管轄する警察署長の道路使用許可を受ける。
- ウ．税務署へ道路使用届を出す。
- エ．工事会社内の承認だけで道路を使用する。

答え・解説

正答：イ

- ア：交通への影響がある工事は許可対象。
- イ：道路で工事・作業をする行為は道路交通法第77条の道路使用許可対象となる。
- ウ：所管が異なる。
- エ：行政上の許可が必要。

総合解説：道路占用と道路使用は別制度であり、工事形態によって両方必要となることがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

床面積100m²の建築物を解体する工事で石綿事前調査を行った結果、石綿は確認されなかった。事前調査結果報告について最も適切なものはどれか。

- ア．石綿がないので報告不要である。
- イ．床面積に関係なく解体工事はすべて報告不要である。
- ウ．石綿がなくても報告対象となる。
- エ．竣工後だけ報告する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：含有なしでも対象規模なら報告する。
- イ：規模基準がある。
- ウ：建築物の解体80m²以上は石綿の有無にかかわらず事前調査結果の報告対象。
- エ：工事開始前の報告である。

総合解説：石綿の「事前調査義務」と「一定規模以上の結果報告義務」を分けて理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

請負金額150万円の建築物改修工事で石綿事前調査を行う。結果報告の取扱いとして最も適切なものはどれか。

- ア．改修工事は金額に関係なく報告対象外である。
- イ．100万円以上でも石綿なしなら報告しない。
- ウ．報告は発注者の任意である。
- エ．石綿の有無にかかわらず報告対象となる。

答え・解説

正答：エ

- ア：改修も対象となる。
- イ：含有の有無に関係なく報告する。
- ウ：法令上の義務である。
- エ：建築物改修工事は請負金額100万円以上で事前調査結果の報告対象。

総合解説：石綿の結果報告対象は解体では面積、改修では請負金額を基準に判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

2026年に工作物の解体・改修で石綿事前調査を行う場合の資格者要件として最も適切なものはどれか。

- ア．対象となる工作物では所定の工作物石綿事前調査者等による調査が必要となる。
- イ．誰が調査してもよい。
- ウ．運転免許だけあればよい。
- エ．調査者資格は建築物にも工作物にも一切ない。

答え・解説

正答：ア

ア：2026年1月以降着工の対象工作物では有資格者による事前調査が必要となる。
イ：資格者要件が設けられている。
ウ：無関係な資格で代用できない。
エ：資格者要件がある。

総合解説：法改正の施行時期を踏まえ、調査者資格を工程前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

2025年4月以降、都市計画区域等にある一般的な2階建て木造住宅の大規模な修繕・模様替を行う場合の建築確認について、最も適切なものはどれか。

- ア．木造住宅の改修は規模に関係なく常に確認不要である。
- イ．改正後は建築確認が必要となる場合があるため、着工前に該当性を確認する。
- ウ．着工後に確認の要否を検討すればよい。
- エ．確認制度は2025年改正の影響を受けていない。

答え・解説

正答：イ

ア：一律不要とはいえない。
イ：2025年4月施行改正で2階建て木造等の大規模修繕・模様替の確認手続が見直された。
ウ：確認が必要なら着工前手続である。
エ：制度変更がある。

総合解説：法改正で手続対象が変わるため、既存建物改修では着工前に建築確認要否を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

道路上に足場を一定期間設置し、その場所を継続的に使用する計画である。手続の整理として最も適切なものはどれか。

- ア．道路使用許可さえあれば占有許可は絶対不要である。
- イ．占有許可だけで交通規制の手続も全て代替できる。
- ウ．道路管理者の占有許可と警察署長の道路使用許可の両方が必要となる場合がある。
- エ．道路に設置する仮設物は行政手続不要である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：別制度である。
- イ：別制度であり代替関係ではない。
- ウ：道路を継続使用する占有と、交通に影響する使用は制度が異なり双方が必要な場合がある。
- エ：必要な許可を確認する。

総合解説：道路関係手続は「道路管理」と「交通管理」の所管を分けて整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120

6-4 法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

法定届出が必要な作業の開始日を工程短縮のため3日前倒しすることになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程優先で届出期限を無視する。
- イ．届出書の日付だけ変更し提出せず作業する。
- ウ．下請へ任せて元請は確認しない。
- エ．届出期限を再確認し、必要なら開始日を調整するなど法定手続を満たしてから作業する。

答え・解説

正答：エ

- ア：法令違反となり得る。
- イ：提出手続が必要。
- ウ：元請として手続状況を管理する。
- エ：工程変更時は法定期限も連動して再確認する。

総合解説：工程変更は手続期限を変えるため、施工計画の変更管理に行政手続も含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

次の下請契約表を読む。
A社 3,500万円 / B社 2,800万円 / C社 2,200万円。
発注者から直接請け負った建築一式工事の元請について、技術者配置の判断として最も適切なものはどれか。

- ア．下請総額8,500万円なので監理技術者を配置する。
- イ．最大1社が3,500万円なので主任技術者でよい。
- ウ．下請3社なので技術者不要である。
- エ．元請負額が示されていないため一切判断できない。

答え・解説 正答：ア

ア：3社の下請総額は8,500万円で、建築一式の8,000万円以上に該当する。
イ：監理技術者の判定は各社最大額ではなく下請総額で行う。
ウ：下請社数で技術者が不要にはならない。
エ：下請総額から監理技術者要否を判断できる。

総合解説：複数の数値を合計し、法令上の閾値へ当てはめる図表読解である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

次の工程経路の所要日数を比較する。
経路A：基礎4日→躯体8日→防水3日
経路B：基礎4日→設備粗配管5日→天井下地4日
経路C：外構2日→舗装5日。
最長経路として最も適切なものはどれか。

- ア．経路Bの13日。
- イ．経路Aの15日。
- ウ．経路Cの7日。
- エ．AとBは同じ日数。

答え・解説 正答：イ

ア：4+5+4=13日。
イ：4+8+3=15日で最長。
ウ：2+5=7日。
エ：日数は一致しない。

総合解説：ネットワーク的な工程判断では各経路の合計日数を比較して支配経路を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

コンクリート圧縮強度の社内判定基準を「3本の平均が 24N/mm^2 以上」と定めている。試験結果が23、25、 26N/mm^2 であった。判定として最も適切なものはどれか。

- ア．最小値 23N/mm^2 が24未満なので必ず不合格。
- イ．最大値 26N/mm^2 だけで合格。
- ウ．平均は約 24.7N/mm^2 なので、この社内基準では合格。
- エ．平均は 22N/mm^2 なので不合格。

答え・解説

正答：ウ

- ア：設問の判定基準は平均値である。
- イ：最大値だけでは判定しない。
- ウ： $(23+25+26)/3=24.67$ で基準以上。
- エ：平均計算が誤っている。

総合解説：問題文で与えられた判定基準に従い、測定値を正しく集計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

リスク評価表で「リスク値＝発生可能性×重篤度」とする。
作業A： 2×5 、作業B： 4×3 、作業C： 3×4 、作業D： 1×5 。
最も優先して対策すべき作業の判断として適切なものはどれか。

- ア．Aだけが10で最優先。
- イ．Dが5で最優先。
- ウ．数値は対策優先順位に使えない。
- エ．BとCがともに12で最優先候補となる。

答え・解説

正答：エ

- ア：Aは10で最大ではない。
- イ：Dは5で最小。
- ウ：設定された評価法に従って優先順位を付ける。
- エ：BとCが最大値12。

総合解説：同値の場合は作業内容や対策可能性等を追加検討するが、まず最大リスクを抽出する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

材料受入表は次のとおりである。

鉄筋D13：必要2,000kg / 受入2,000kg

鉄筋D16：必要1,500kg / 受入1,200kg

鉄筋D22：必要800kg / 受入900kg。

工程着手前に最も優先して確認すべきものはどれか。

ア．D16が300kg不足しているため追加手配と工程影響を確認する。

イ．D13をさらに2,000kg追加発注する。

ウ．D22を不足と判断する。

エ．全て必要量以上なので問題ない。

答え・解説

正答：ア

ア：D16は必要1,500に対し1,200で300kg不足。

イ：D13は必要量を満たす。

ウ：D22は100kg多い。

エ：D16が不足している。

総合解説：数量表では不足だけでなく過剰納入も識別し、施工工程と照合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126

6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

出来形基準を「設計寸法±5mm以内」とする。測定表は、 +3mm、 -4mm、 +7mm、 0mmである。
最も適切な判定はどれか。

ア． と が基準外である（考え方：+3,-4は許容範囲内）

イ． だけが基準外である（考え方：+7mmは許容+5mmを超える）

ウ．全て基準内である（考え方： が範囲外）

エ． だけが基準外である（考え方：0mmは基準内）

答え・解説

正答：イ

ア：+3,-4は許容範囲内。

イ：+7mmは許容+5mmを超える。

ウ： が範囲外。

エ：0mmは基準内。

総合解説：出来形は設計値からの偏差を許容範囲と比較して判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

クレーンの簡易能力表を読む。
作業半径10m：吊上げ可能5.0t
15m：3.2t
20m：2.1t。
重量2.8tの部材を半径15mで吊る計画について最も適切なものはどれか。

- ア．2.8tは3.2tを超えるので吊れない。
- イ．半径20mの能力2.1tを使って判定する。
- ウ．表上は能力3.2t以内だが、玉掛け具等の重量や実機条件も含めて最終確認する。
- エ．能力表を確認せず吊り始める。

答え・解説 正答：ウ

ア：大小関係が逆。
イ：実際の作業半径15mを用いる。
ウ：2.8t<3.2tだが、実作業では付加重量・仕様条件等の確認が必要。
エ：定格荷重確認が必要。

総合解説：能力表は条件を一致させて読み、吊荷総重量・作業半径・実機仕様を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

工事写真一覧に、 配筋完了、 コンクリート打込み中、 型枠解体後、 完成外観がある。配筋が隠べいされる前の証拠として最も重要な写真はどれか。

- ア． コンクリート打込み中。
- イ． 型枠解体後。
- ウ． 完成外観。
- エ． 配筋完了。

答え・解説 正答：エ

ア：打込みが始まると配筋全体確認が難しい。
イ：配筋は既に見えない。
ウ：内部配筋を確認できない。
エ：鉄筋径・間隔・かぶり等を隠べい前に確認できる。

総合解説：写真記録は後から確認できない工程を重点的に残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

建設副産物の集計表は、コンクリート塊40t中36t再資源化、アスファルト塊20t中20t再資源化、木材10t中5t再資源化である。最も再資源化率が低い品目はどれか。

- ア．木材。
- イ．コンクリート塊。
- ウ．アスファルト塊。
- エ．3品目すべて同じ。

答え・解説 正答：ア

ア：木材は $5/10=50\%$ 。
イ： $36/40=90\%$ 。
ウ： $20/20=100\%$ 。
エ：率は異なる。

総合解説：数量を率に換算して比較することで重点改善対象を把握できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

週間進捗表で、計画出来高が60%、実績出来高が52%である。最も適切な認識はどれか。

- ア．計画より12ポイント進んでいる。
- イ．計画に対して8ポイント遅れている。
- ウ．実績が52%なので工事は必ず予定どおりである。
- エ．差は108ポイントである。

答え・解説 正答：イ

ア：大小関係が逆。
イ： $60-52=8$ ポイントの遅れ。
ウ：計画との比較が必要。
エ：計算が誤っている。

総合解説：進捗は実績単独ではなく計画値との差で把握し、原因と今後の影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

作業員配置表は、型枠予定8人・実績5人、鉄筋予定6人・実績6人、設備予定4人・実績5人である。翌日の躯体工程で最も注意すべき不足はどれか。

- ア．鉄筋作業員が6人不足している。
- イ．設備作業員が1人不足している。
- ウ．型枠作業員が3人不足している。
- エ．全工種が予定人数を満たしている。

答え・解説 正答：ウ

- ア：予定と実績が同数。
- イ：設備は1人多い。
- ウ：8-5=3人不足。
- エ：型枠が不足。

総合解説：人員表は人数差だけでなく、クリティカルな作業への影響と合わせて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 6-5 複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

仕上げ検査の不具合集計が「傷18件、汚れ7件、寸法不良5件、作動不良3件」であった。まず重点的に原因分析する対象として最も適切なものはどれか。

- ア．件数が最少の作動不良だけ。
- イ．全項目を件数に関係なく同順位とする。
- ウ．検査件数を無視して材料価格だけで決める。
- エ．件数が最多の傷。

答え・解説 正答：エ

- ア：件数だけなら最少である。
- イ：優先順位付けに集計値を活用できる。
- ウ：不具合発生状況の分析が必要。
- エ：最多18件の傷は重点原因分析の第一候補となる。

総合解説：パレートの考え方では発生頻度の高い項目から原因を掘り下げ、全体の不具合低減につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

供用中の市街地建物で外壁改修を行う。条件は「歩道沿い」「足場の一部が道路上」「石綿含有の可能性あり」「利用者出入口を継続使用」である。着工前の整理として最も適切なものはどれか。

- ア．道路関係許可、石綿事前調査、歩行者動線分離、落下防止を一体で計画する。
- イ．外壁施工方法だけ決め、行政手続と利用者動線は後回しにする。
- ウ．石綿調査をせず撤去してから確認する。
- エ．歩行者と資材搬入を同じ動線にする。

答え・解説

正答：ア

- ア：複数条件を同時に満たす施工計画が必要。
- イ：重要条件を落としている。
- ウ：事前調査が必要。
- エ：第三者災害のリスクが高い。

総合解説：複合条件問題では、法令・安全・供用条件を漏れなく整理して施工可能な形へ統合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

翌朝コンクリート打込み予定だが、配筋検査が未完了で午後から大雨予報である。最も適切な条件整理はどれか。

- ア．予定日なので検査未了のまま打ち込む。
- イ．配筋検査完了の見込み、打込み・養生可能時間、降雨対策を確認し、無理なら日程を変更する。
- ウ．雨天でも養生計画なしで施工する。
- エ．工程だけを理由に品質確認を省略する。

答え・解説

正答：イ

- ア：隠ぺい前検査が必要。
- イ：品質のホールドポイントと気象条件を同時に満たす必要がある。
- ウ：品質低下リスクがある。
- エ：検査省略は不適切。

総合解説：施工可否は工程単独でなく品質確認・気象・養生条件を総合して決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

鉄骨建方を計画している。条件は「強風注意報」「吊荷経路近くに架空電線」「地盤の一部が軟弱」である。最も適切な対応はどれか。

- ア．吊荷が軽ければ全条件を無視する。
- イ．電線だけ確認し地盤は見ない。
- ウ．作業中止基準、電線防護・離隔、クレーン支持地盤を再確認し、安全条件を満たすまで開始しない。
- エ．風だけ確認し電線と地盤は作業員注意で済ませる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：複合リスクを無視している。
- イ：転倒リスクを残す。
- ウ：三つの重大条件を全て管理する。
- エ：感電・転倒リスクを残す。

総合解説：重大リスクが複数ある場合は、一つだけでなく全条件を施工開始判定へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

地下掘削を開始する。条件は「地下水位が高い」「既設ガス管が近い」「隣接建物との離隔が小さい」である。最も適切な計画はどれか。

- ア．地下水だけ排水し埋設管は確認しない。
- イ．隣接建物の変位は完成後だけ確認する。
- ウ．ガス管位置が図面にあるので試掘等は不要とする。
- エ．埋設管位置確認、山留め・排水計画、周辺変位監視を組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

- ア：埋設物事故のリスクが残る。
- イ：施工中監視が必要。
- ウ：現況確認が必要。
- エ：掘削に伴う主要リスクを統合して管理する。

総合解説：地下工事では地盤・地下水・埋設物・近隣影響を相互に関連づける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

駅前の外壁タイル補修で、作業範囲直下を多数の歩行者が通行する。最も適切な施工条件の整理はどれか。

- ア．落下防護、作業区画、誘導員、作業時間帯を調整して第三者を危険範囲から分離する。
- イ．頭上注意の看板だけで通行させる。
- ウ．歩行者が多い時間ほど材料を大量搬入する。
- エ．浮きタイルを落下防止せず撤去する。

答え・解説

正答：ア

- ア：第三者災害防止を複数の物理的・管理的対策で行う。
- イ：看板だけでは不十分。
- ウ：交錯を増やす。
- エ：落下物災害の危険がある。

総合解説：公衆災害リスクが高い場所では作業者向け対策だけでなく第三者動線を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

狭小敷地で資材置場が少なく、前面道路の搬入時間も制限されている。工程を守るため最も適切な条件整理はどれか。

- ア．全資材を初日に搬入する。
- イ．工程・揚重時間と連動したジャストインタイム搬入と予約管理を行う。
- ウ．搬入時間制限を無視する。
- エ．場内動線を塞いで仮置きする。

答え・解説

正答：イ

- ア：置場不足を悪化させる。
- イ：保管能力と搬入制約を工程に合わせる。
- ウ：交通・近隣条件を満たさない。
- エ：安全・生産性を損なう。

総合解説：制約条件を工程に変換し、搬入ロットと時間帯を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

元請の建築一式工事で下請総額7,500万円、公共性のある工事で請負金額1億円、技術者の専任を要する条件に該当する。最も適切な整理はどれか。

- ア．下請総額が7,500万円なので監理技術者を専任配置する。
- イ．請負金額1億円なので技術者不要である。
- ウ．監理技術者ではなく主任技術者を専任配置する。
- エ．主任技術者は専任できない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：監理技術者基準には達していない。
- イ：専任技術者が必要。
- ウ：建築一式の監理技術者基準8,000万円未満なので主任技術者だが、専任条件は別途満たす。
- エ：主任技術者も専任配置の対象になり得る。

総合解説：「主任か監理か」と「専任か否か」は別の判定軸として整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140

6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

天井閉鎖前日だが、天井内設備の漏水試験が未完了で、防火区画貫通部の耐火処理も一部未確認である。最も適切な対応はどれか。

- ア．工程優先で閉鎖し、不具合があれば後ではつる。
- イ．写真だけ撮って未試験のまま閉鎖する。
- ウ．防火処理は仕上げ後に見えないので確認不要とする。
- エ．試験と耐火処理の確認を完了するまで、該当範囲の天井閉鎖を保留する。

答え・解説

正答：エ

- ア：手戻りと品質リスクが大きい。
- イ：試験そのものが必要。
- ウ：防火性能確認が必要。
- エ：隠ぺい後に確認困難な品質項目は閉鎖前に確認する。

総合解説：条件整理では後戻り不能な工程のホールドポイントを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 6-5 複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

真夏の屋上防水工事で、WBGTが高く、作業員1名が前夜から体調不良を訴え、工程も遅れている。最も適切な判断はどれか。

- ア．体調確認と熱中症対策を優先し、必要なら作業員交代・休止を行って工程を再調整する。
- イ．遅れを取り戻すため休憩を削る。
- ウ．本人が希望すれば体調不良でも高温作業を続ける。
- エ．水分補給を禁止して作業効率を上げる。

答え・解説 正答：ア

- ア：健康・安全条件を満たす範囲で工程を組み直す。
- イ：熱中症リスクを高める。
- ウ：重篤化の危険がある。
- エ：不適切な健康管理。

総合解説：工程遅延は安全条件を無視する理由にならず、安全確保後に工程対策を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

工程が3日遅れている現場で、同時にコンクリート強度試験の一部に不適合の疑いが出た。最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．工程回復を優先して不適合情報を無視する。
- イ．品質影響範囲を特定して必要な施工を保留し、試験・記録を確認したうえで工程回復策を検討する。
- ウ．不適合記録を削除して工事を続ける。
- エ．全工事を理由なく無期限停止する。

答え・解説 正答：イ

- ア：品質リスクを流出させる。
- イ：品質の確証を得ず後工程へ進むと手戻り・安全問題が拡大する。
- ウ：記録改ざんとなる。
- エ：影響範囲を絞って合理的に判断する。

総合解説：総合判断では安全・品質上の重大リスクを先に封じ、その後に工程回復を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

作業床の手すり外されたまま高所作業が始まっていることを発見した。最も適切な現場指示はどれか。

- ア．注意喚起だけで作業を継続する。
- イ．終業時に直せばよい。
- ウ．直ちに危険範囲の作業を止め、墜落防止設備を復旧・確認してから再開する。
- エ．写真を撮るだけで正しい。

答え・解説

正答：ウ

- ア：重大災害リスクが残る。
- イ：是正が遅すぎる。
- ウ：切迫した墜落危険はまず作業停止と物的対策で除去する。
- エ：記録だけでは危険を除去できない。

総合解説：重大な安全欠陥は工程より優先して即時是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

近隣から振動苦情があり、同時に現場計測値も通常より上昇している。最も適切な対応はどれか。

- ア．苦情は主観なので無視する。
- イ．計測値を記録せず作業を続ける。
- ウ．近隣へ責任転嫁する。
- エ．作業条件を確認して必要なら一時停止し、発生源・計測・周辺影響を確認して工法や時間帯を見直す。

答え・解説

正答：エ

- ア：周辺影響を悪化させる。
- イ：原因分析ができない。
- ウ：問題解決にならない。
- エ：客観データと現場条件を確認し、必要な低減策へつなげる。

総合解説：環境苦情は事実確認、応急対応、原因分析、恒久対策の順で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

受入れた仕上げ材が指定品と異なり、すでに一部施工済みであることが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．未使用材を隔離し、施工済み範囲を特定して適合性を確認し、承認された是正方法を定める。
- イ．異なる材料でも見た目が同じならそのまま使う。
- ウ．納品書を廃棄して記録を残さない。
- エ．残りも同じ材料で施工して統一する。

答え・解説

正答：ア

ア：不適合の拡大を止め、トレーサビリティを確保して是正する。
イ：設計適合性を確認していない。
ウ：原因・範囲追跡ができなくなる。
エ：不適合を拡大する。

総合解説：材料不適合は「隔離→範囲特定→評価→是正→再確認」で処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

完成間近の建物で降雨後に窓回りから漏水が確認された。最も適切な対応はどれか。

- ア．内装材で漏水跡を隠して引き渡す。
- イ．室内養生で被害拡大を防ぎ、外部シール・水切り・建具取合い等を調査し、補修後に再確認する。
- ウ．原因調査せず室内側だけコーキングする。
- エ．次の雨まで何もしない。

答え・解説

正答：イ

ア：欠陥を隠すだけである。
イ：応急保護と原因箇所の特定、補修、再試験を行う。
ウ：水の侵入経路を確認する必要がある。
エ：被害拡大の恐れがある。

総合解説：漏水は見えている場所と侵入口が一致しない場合があるため原因追跡が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

クレーン作業中、アウトリガー付近の地盤が沈下し始めた。最も適切な対応はどれか。

- ア．沈下量が小さいうちは吊荷を増やして早く終える。
- イ．作業員がアウトリガーを足で押さえる。
- ウ．吊り作業を中止して安全状態を確保し、地盤・敷板・支持条件を再評価してから再開する。
- エ．記録だけして作業を継続する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：危険を増大させる。
- イ：極めて危険。
- ウ：転倒につながる兆候なので即時中止し支持条件を見直す。
- エ：危険を除去できない。

総合解説：機械の安定条件に異常が出た場合は、兆候段階で止めて再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

施工図と設計図書で設備開口位置が一致せず、現場では鉄筋と干渉することが分かった。最も適切な対応はどれか。

- ア．鉄筋を無断で切断して施工図を優先する。
- イ．設計図を無視して現場合わせで孔を開ける。
- ウ．干渉を記録せず後工程へ進む。
- エ．施工を保留して設計意図・構造影響を確認し、承認された位置・補強方法で施工する。

答え・解説

正答：エ

- ア：構造安全を損なう。
- イ：承認のない変更となる。
- ウ：後で確認できなくなる。
- エ：設計矛盾と構造影響を解消してから不可逆施工へ進む。

総合解説：図書間の不整合は現場判断で隠さず、設計・施工の情報を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

工事写真では配筋が適正に見えるが、出来形記録の一部に数値の転記ミスが疑われる。最も適切な対応はどれか。

- ア．原記録・測定者・写真等を照合し、事実に基づいて記録を訂正し訂正履歴を残す。
- イ．都合のよい数値へ書き換え履歴を消す。
- ウ．写真があるので数値記録は全て廃棄する。
- エ．疑義を放置して竣工書類へ綴る。

答え・解説

正答：ア

- ア：品質記録は真正性を保ちながら根拠に基づき訂正する。
- イ：改ざんとなる。
- ウ：複数記録は相互補完する。
- エ：誤記の可能性を解消する必要がある。

総合解説：総合判断では現物だけでなく、品質記録の信頼性も完成品質の一部として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150

6-5 複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

工程終盤で複数の小さな不具合が同時発生した。安全上の危険1件、機能不良2件、美観不良5件がある。是正優先順位として最も適切な考え方はどれか。

- ア．件数が最も多い美観不良だけを最優先する。
- イ．件数だけでなく重大性を評価し、まず安全上の危険を除去し、次に機能・品質への影響が大きいものを処理する。
- ウ．全て同時に手を付けて責任者を決めない。
- エ．引渡し直前なので安全不具合も残す。

答え・解説

正答：イ

- ア：発生件数だけでは優先順位を決められない。
- イ：リスクの重大性を優先し、計画的に是正する。
- ウ：管理が分散する。
- エ：安全欠陥を残せない。

総合解説：現場総合判断では件数・工程だけでなく、安全、機能、品質、影響範囲の重大性で優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21